

2025年10月16日 NO.144号

# 障害児・者サークル通信



発行：性教協★障害児・者サークル事務局

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会（性教協）本部・事務局

〒151-0071 東京都渋谷区本町1丁目7番16号 初台ハイツ1006号

HP <https://shogaiji-sha.seikyokyo.org>

## 《特集》夏のセミナー報告

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| ●性教協 第44回 全国夏期セミナーin沖縄 記念講演・分科会  | 1 |
| ●障害児・者サークル 第12回障害児・者性教育セミナー in 堺 | 3 |
| ●全国障害者問題研究会第59回全国大会in広島 分科会      | 4 |
| ●「障害と生きる」青年の今から(8)               | 6 |
| ●きいてきいて困ったどうしよう悩める実践③            | 7 |
| ●お知らせ                            | 8 |

## “人間と性”教育研究協議会第44回 全国夏期セミナーin沖縄

### 記念講演：「性教育バッシングが始まりだった！」

### ～愛国と教育危機のつながりを沖縄から考える～

快晴の沖縄で全国セミナーが行われました。1日目について、障がい児・者に関連する内容で報告します。

#### ■障がい児とその家族の権利

記念講演講師は、元毎日放送の斉加尚代さんだった。『教育と愛国』に触れながら、教育と政治介入について語った。関連して、七生養護学校のここから裁判の判決を示し、教育の政治介入の影響が確認された。

シンポジウムではサークル会員の安里瑞穂さんが登壇された。沖縄県の性に関する指導の手引きの資料集づくりに携わった。性教育を学べば学ぶほど、子どもたちに届けたい内容だと思えてきた。実践での子どもの反応が嬉しい。他の子どもたちも、先生になら性のことが話せると言ってくれる。一方で資料集は実態に合った形ではなく、学習指導要領が優先された。改訂の余地があることが救いだが…。

肢体不自由児や医療的ケア児と関わると「からだの権利」が保障されていない場面に遭遇する。医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が施行されたが、現場にはまだまだ支援が足りない。今関わっている子どもはひとり親家庭で、母が入院することになったが、子どもの預け先が決まらず、治療が受けられない。自分の生活さえ削っている中では、声をあげていけない。

#### ■沖縄で考える人権と平和

斉加さんは関西発ローカル番組『映像シリーズ』で、

沖縄戦を6歳未満で経験し、身体に障がいを負いながら戦後暮らす人を取材されたそうだ。戦争がもたらした問題は、その後の人権問題に大きくつながっている。

安里さんは、フラワーデモや、基地反対運動を行っている。教員になってから労働組合活動で集会に誘われたのだが、ただ行って反対したことに満足している自分がいた。2016年に高江の基地反対運動で、映画監督の三上智恵さんに会った。

「あなたはその後泊まり込んで反対するんですか」聞かれてハッとした。自分事になった瞬間だった。そこからは仕事がない土曜日は高江に泊まり、抗議を続けている。

6月に県全体で行われる平和教育は、現在の沖縄とつながっていない。沖縄戦の教訓「軍隊は住民を守らない」が住民の中で薄れてきている。平和集会中は「戦争は嫌だ」という子どもたちも、家庭科の授業で「戦争って何？」という問に答えられなかった。平和教育をやり直さないといけない、積み重ねないといけないと感じる。

最後に、安里さんはこう語った。  
性・障がい・平和の根っこは同じだと思う。暴力で壊されやすいからこそ、抗っていきたい。暴力を許さずに生きること、自分や周りの人の人生がゆたかになると思う。  
(辻 奈由巳)